

大阪、雨と笑いと水景色

1 年生 赤坂貴之

このレポートでは、～水の都大阪～をテーマにした、塩路ゼミによるフィールドワークの報告をします。

1. 大阪周遊パスを使った計画

今回のフィールドワークは大阪周遊パスを使用し、自分たちが行く施設、使用する地下鉄、またはその順序と時間を事前にしっかり調査をし、当日にスムーズに行動できるように計画を立てました。フィールドワークにおいて最も重要である「事前調査」をゼミ全体で学ぶ良い機会になりました。

しかし、当日は想定外の雨天となり、初めから計画が崩れ落ちました。ここで、一つ自分たちに新しく課題が出来たのではと私は思いました。事前に雨天の場合の事を考えていれば、本来計画していたルートとは別ルートによるフィールドワークが出来たはずですが、しかし私たちはその事を想定出来ていませんでした。今回下調べによるフィールドワークは初めてであったので、ここで一つ課題を残すことができました。

また、「大阪周遊パス」について簡単にまとめると、大阪の地下鉄ならばパス一枚で一日限定どこでも行けるというもので、また同付のクーポンを使えば大阪の 28 の施設へ無料で利用できる、まさに大阪を観光するにあたって最も有効なキーアイテムになっています。価格は 1 枚 2000 円、上記の利用域を考えればかなりお得なセットとなっているのではないのでしょうか。

フィールドワークで私たちが行く予定になっていた施設は、なにわの海の時空館、とんぼりリパークルーズ、天保山大観覧車の 3 つの施設であったが、天候に恵まれず中止となりました。私たちは集合時間である 12 時半にひっかけ橋で集合しましたが、雨のためとんぼりリパークルーズへ乗る事をやむを得ず中止することになりました。これからの行動について考えていた時に、ゼミ仲間の亀井君の知り合いの芸人さんによる誘いで、道頓堀 ZAZA へ行くことになりました。

2. 道頓堀 ZAZA によるお笑いライブ

館内では飲食が可能で気軽な空間であり、通常の入場料なら 500 円で入場できます。また、ネタをする芸人は若手ばかりであり、面白いグループもあれば面白くないグループも

ありました。しかし、館内の雰囲気は笑いに満ち溢れていました。ちなみに1日3〜4回公演しているようです。ライブでは他府県から来ているお客さんがほとんどで、大阪ではお笑いというものが一つの観光資源として成り立っていることが分かりました。

ここで一つ、私たちのグループの留学生である宇さんと全さんから私たちに質問がありました。その内容は「今までにこのようなお笑いライブは行った事があるのか？」というもので、私たちは「いいえ」と答えました。そこで「なぜお笑いの文化が盛んな大阪に住んでいるのに行った事がないの？」と留学生の2人から疑問がありました。私たちはこれに対して何も答えられず、お笑いの文化で包まれている大阪に住んでいてテレビでもバラエティ番組などでお笑い芸人が茶の間を賑やかにしているのは知っているはずなのに、行ったことがなかったのです。私たち現地組は、意外にも大阪の事について分かっていないのだと痛感しました。

ZAZAを離れると地下鉄を利用し、なにわの海の時空館へ移動し、千日前線から中央線へ乗り換え難波からコスモスクエアへ行きました。コスモスクエアへ着くと少し歩いたところになにわの海の時空館があったのだが、雨がひどくなったので、バスを利用し移動しました。

2. なにわの海の時空館の特色

なにわの海の時空館は、大阪の海の交流史に触れながら、人々が海・船・港にどのような関わってきたかを、見て、聞いて、触れて、体験し、学べる施設になっています。注目すべきなのはやはりガラス張りで出来ているドーム。4208枚のガラスでできており、総工費は176億円にもわたります。一目でなにわの海の時空館と分かるようになっていました。また、入館する際にエレベーターを使うのだが、エレベーターの前にはゲートがあり、受付の際に渡される特殊なコインを入れる事によって入館することが出来るようになっていました。

館内へ入るまでのトンネルは海の下をちょうど通っているらしく、直接海の中の景色が見えるわけではないですが、独特の青いイルミネーションでトンネルが演出されており、大阪の水の都を連想させるものでありました。

展示は実物大に復元された菱垣廻船（ひがきかいせん）“浪華丸”を中心に、4階「海がつなぐ世界の文化」、3階「大阪みなとの繁栄」、2階「船」、1階「海への誘い」を4つのフロアで展開されていました。菱垣廻船の中はライト付のヘルメットをかぶる事によって

船内へ入ることができます。予想以上に船内は天井が低く、基本的にしゃがんだ状態で動く事になりました。1階には、子供向けにもマンガや玩具が置かれているコーナーもあり、幅広い年齢層にも相応しい設備となっていました。

館内をゆっくりと観察していく内に、時間も気づけば夕方になっており、最終ポイントである天保山大観覧車へ向かいました。地下鉄中央線はそのままコスモスクエアから大阪港へ一駅だけ移動しました。

3. 天保山大観覧車となにわの味

まず、天保山大観覧車に乗ってどうするのか？と思われるかも知れませんが、これには歴とした理由があります。今回は水の都大阪がテーマになっているため、大阪の海景色を一望でき、この大阪周遊パスで利用できる施設にも含まれていたため推薦して選んだのです。同じ塩路ゼミのもう1つのグループと集合し、共に行動をし、いざ観覧車へ乗りました。実際のところ、雨が降っていたので観覧車のガラスも雨粒だらけ、夜の大阪の海を綺麗に一望出来なかったほか、写真も上手く撮ることが出来ませんでした。

しかし、普段の晴れた日には、東に生駒山系、西に明石海峡大橋、南は関西国際空港、北は六甲山系までが見えるようです。これも大阪でしか見ることができません。また、イルミネーションによる打ち上げ花火や、底面が透明のシースルーキャビンも2基あるのでスリルを味わい楽しむことが出来るようです。

その後は天保山マーケットプレースへ入り、その中にある「なにわ食いしんぼう横丁」で食べ歩きをしました。この「なにわ食いしんぼう横丁」は大阪万博を目前にした、大阪がもっとも元気に輝いていた時代、昭和40年前後の“元気な大阪”を演出テーマに、駅前商店街等、当時の大阪下町をイメージした町並みが再現されています。この懐かしきレトロな街並みの中で食べる“なにわグルメ”はより一層“なにわの味”を引き出していました。

おわりに

今回、塩路ゼミでのフィールドワークは2回目で、ゼミ仲間同士の仲も良くなった頃でしたので、事前調査や下調べは以前と比べて、かなりスピーディに団結しあって各個人がすべきことを分担しながらできました。しかし、事前調査をしっかりと行っても、当日になると計画どおりに行かなかったことも今後の課題となりました。とんぼりリバークル

ーズに乗り、大阪中心部の水景色を一望することが今回のタイトル的には相応しかつたので非常に残念です。その代わり、急遽予定変更によるお笑いライブ **ZAZA** へ行くことによって、留学生による私たち大阪人に対する疑問も聞くことができ、今後私たちがもっと大阪の事を知らなくてはならないと改めて実感させられる良い機会となりました。

今回私たちが行った「なにわの海の時空館」ですが、悲しい事に 2013 年 3 月頃に閉館されるとのことです。同館は、港湾とともに発展した大阪の歴史を学べる施設としてたくさんの資料や展示物がありましたが、閉館することによってもう見る事が出来なくなります。幸いにも、建物の撤去はされないそうですが理由は撤去だけでも巨額の費用がかかるからだといいます。

廃止されればもう一生見る事ができなくなるので、頭の中でこのような施設があったことを忘れずに留めておきたいと思います。また、この施設の代理となる施設は調べてみたが今のところ存在しません。大阪の町を水面から眺める施設は複数あるものの、大阪の海と交流史をテーマにした船と歴史を体験できる施設はここしか無かったので、大阪にとって重要な博物館が消えてしまうという面では残念です。

また大阪周遊パスを使う機会があれば、自分が大阪で行った事が無い所へ行行って、大阪人であるからこそ大阪の事を知り、このような面白い施設があるのだと他府県の方や留学生に教えられるようになりたいです。また 2000 円でたくさんの経験が出来る事が分かったフィールドワークでした。これからまたフィールドワークをする機会があるでしょうが、今回のフィールドワークで生まれた課題を次にしっかり活かしていくことを心がけようと思います。